2019 年度

特別支援学校・学級限定！

「アーティストの一日学校訪問」の実施記録

講師：山川冬樹（美術家・ホーメイ歌手）

東京都現代美術館では、スクールプログラムの一環として、毎年収蔵作家 1 名が学校を訪問（6 校程度）し授業を行う「アーティストの一日学校訪問」を行っています。毎回多くのお申し込みをいただき、特別支援学校からも応募があります。しかし、通常校も訪問するため実際に訪問できる特別支援学校は 1 ～ 2 校が限度です。そこで、2019 年度は通常の「アーティストの一日学校訪問」とは別枠で、“特別支援学校・学級限定”の特別メニューを用意し実施しました。講師は過去に訪問授業を実施し、身体感覚にうったえるパフォーマンスが特徴的な美術家・ホーメイ歌手の山川冬樹さんに再びお願いしました。

授業内容

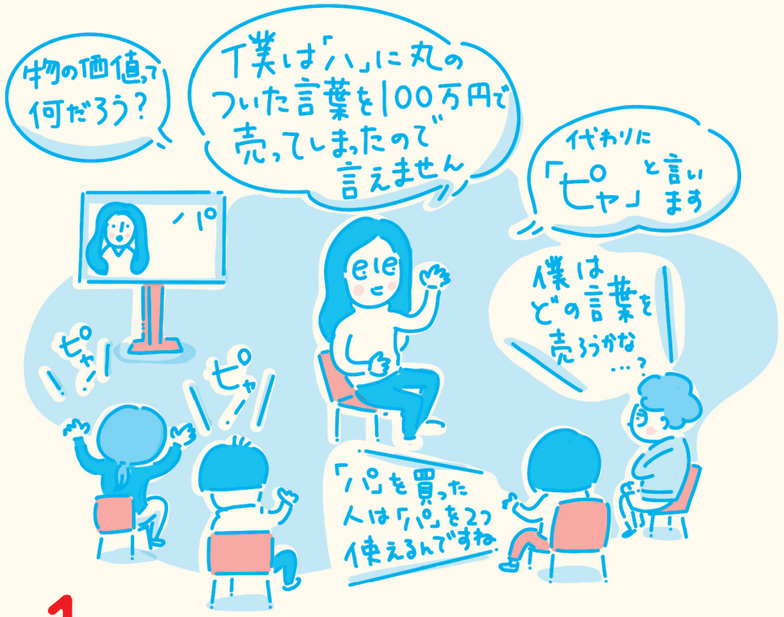
「感覚をひらく！　身体（からだ）からはじまる表現」

山川さんの表現活動についてのレクチャーを交えながら、「ホーメイ」※や「心臓の鼓動」、「骨伝導」といった、身体が生み出す“音”を使ったパフォーマンスを間近で体験してもらい、かつ児童・生徒にも実際に「からだ」を使った表現に挑戦してもらった。

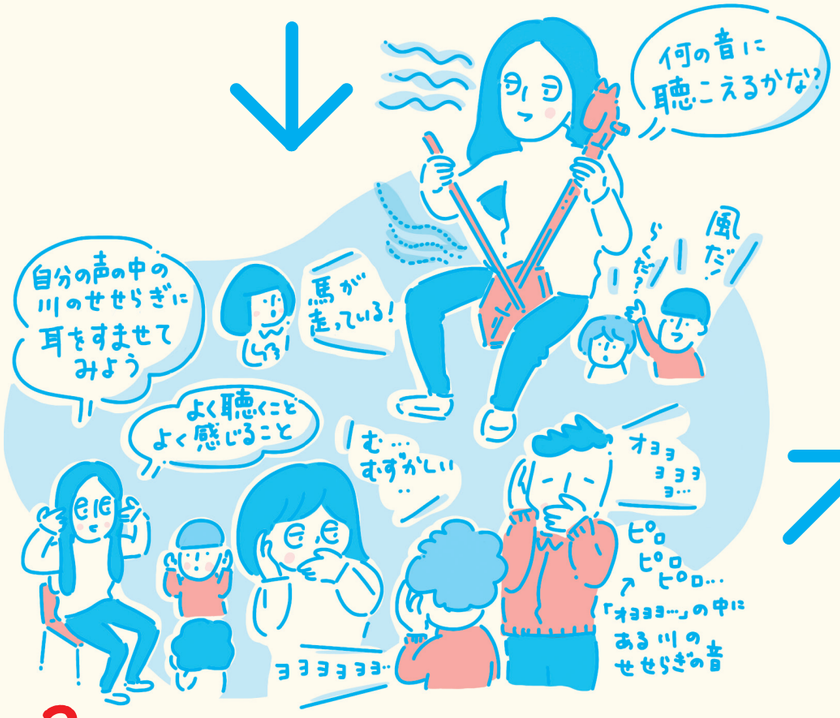
※ホーメイ：トゥバ共和国に伝わる倍音を用いた歌唱

ねらい

もっとも身近なメディアである「からだ」を使った表現に触れることで、自分の感覚をひらき、「図工・美術」の授業に「身体表現」という表現領域を取り入れていくきっかけとする。



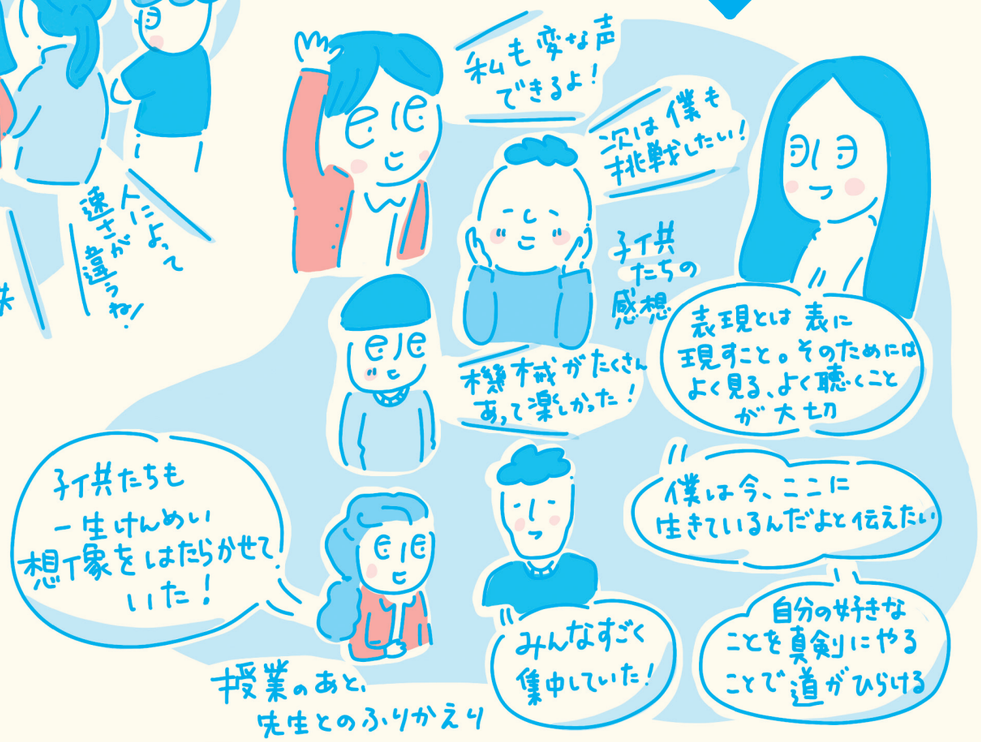
1 「パ」を売った話



2 ホーメイの実演、みんなでやってみる

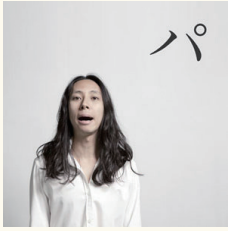
3 電子聴診器を使った心臓の鼓動の見える化、聴こえる化。電球が光ったり、太鼓が鳴ったり。児童・生徒にも体験してもらう

4 骨伝導マイクを使って演奏



5 最後のまとめ

アーティストプロフィール　山川 冬樹（やまかわふゆき）　美術家・ホーメイ歌手



1973年ロンドン生まれ。トゥバ共和国に伝わる歌唱法、ホーメイの歌い手として活動をスタート。自らの声と身体を媒体に視覚、聴覚、皮膚感覚に訴えかける表現で、音楽、現代美術、舞台芸術の境界を超えて活動。マスメディアと個人をめぐる記憶を扱ったインスタレーション『The Voice-over』(1997〜2008)、自らが口にする「パ」という音節の所有権を100万円で販売する『「パ」日誌メント』(2011-現在)などを発表。当館での展覧会:「MOTコレクション Plastic Memories|いまを照らす方法」(2010年)、「山口小夜子 未来を着る人」(2015年)など。
Twitter: @yamakawafuyuki

学校訪問を終えて

へんなおとな代表　山川 冬樹

「表現」とは「表に現す」と書くけれども、すべての表現は自分から何かを表す／現す前に、よく見ること、よく聴くこと、五感を使って世界を感じることからはじまります。よく見て、よく聴いて、よく感じ、よく観察しながら、世界の面白さ、豊かさ、美しさに気づくこと。誰もまだ気づいていないことや、見過ごされている大切なことを、自分の目や耳でみつけること。「表現」は美術や音楽だけに関わるものではありません。僕らは日常的に声や、言葉や、身振りや、時にメディアやテクノロジーを使っていつも表現しています。一つのことをあらわすにもたくさんの方法がありますが、ではどんな方法で、どんな風にあらわせば、人の心に届くのかを工夫すること。そしてその工夫こそが自分だけの新しい表現を生み出すのです。
僕が一番あらわしたいのは「今、ここで僕は生きているんだよ」というとても単純なことです。そして同時にみんなも一緒に今ここで生きているんだよ、ということです。全身を使って生きた時間をこの場所に取り戻し、みんなと共有し、楽しみながら自分たちの存在を肯定すること。それが僕のアーティストとしての仕事だと思っています。
子供のうちはみんな好きなことがありすぎて、やりたいことだらけ。それが大人になると、どこかで誰かに大事なものを奪われて「好きなことがない」「やりたいことが見つからない」と悩みはじめ、その「なさ」に負い目を感じはじめる。世の中そんなことが多いような気がします。我を忘れ、時間を忘れ、大好きなことに集中しているその瞬間、僕らは全身全霊で「現在」を生きています。例え勉強や仕事に直接結びつかなくても、そのかけがえのない時間はずっと大切にしてほしい。だからどんな進路に進んでも、本当に好きなことは楽しみながら、でもその代わり誰よりも真剣に、あきらめずに続けてほしいと思います。
訪問先で出会った生徒の皆さん、そして先生方からはたくさんのことを教えられ、感謝の気持ちでいっぱいです。どこものびのびとした、やさしい空気が漂っていて、僕自身、枠にはまれず悩みながら子供時代を過ごしたので、なんだかとても心地よかったです。ああ、ここに通いたかったなあ、と思ったり。世の中では枠に上手くはまれない子は「問題児」なんて言われてしまうけれども、問題はきっとその子にあるんじゃない。僕はへんなおとなの代表として、そういう子たちの味方でいたいと思っています。

「出会うこと」が全てのはじまり　郷 泰典(東京都現代美術館　学芸員)

当館で取り組んでいる「アーティストの一日学校訪問」は20年近く継続している事業です。現代美術の特徴のひとつはアーティストが生きているということ。なので、こうして当然のことながら生身の人間が学校に行って児童や生徒たちとふれあうことができます。かといって、日頃から子供たちと接することに慣れているアーティストというのはそう多くはいません。ですので、この事業をお願いする際に正直に「子供は苦手です」とお断りされることもあります。でも、逆にどうなるかわからないので訪問してみたいとおっしゃるアーティストがほとんどです。今回のように特別支援学校・学級限定という枠を設けての実施は初めての取り組みです(通常の学校訪問でも毎回特別支援の学校からの応募があります)。訪問校の選定にあたっては、アーティストと美術館の担当スタッフとで教員の応募動機などを精査し決定するのですが、どのアーティストも特別支援の学校には訪問してみたいといってくれます。そして今回のように特別支援限定となると、日頃あまり接する機会のない子供たちの中でもさらに接する機会の少なくなる子供たちに立ち向かうわけですから、ますます未知な経験になります。アーティストにとってはまさに「挑戦」です。そうした中で山川さんを今回訪問アーティストとして選んだのは、過去にも学校訪問をお願いしていることから子供たちと接する経験が豊富なこと、そしてなにより身体性をもちいたパフォーマンス系のアーティストであるため、どの学年にも対応でき、特に音の振動や光の明滅などを用いて聴覚や視覚に障害のある子にも体験的な経験をしてもらえるということが大きな理由です。山川さんは学校訪問の事業は「狭い業界の価値観ではなく、普遍的なレベルで試されるシビアな現場」であるといいます。まさに、アーティストとしての生き様ともいえる表現の本質が試される場です。過去に訪問していただいたどのアーティストもとてもやりがいがあり、また自分自身の勉強にもなる場であったといっています。もちろん山川さんもそのお一人です。今回は訪問する学校が全て特別支援であることから、事前の打ち合わせでも念入りに子供たちの状況をリサーチし、当日も子供たちの反応を見ながら臨機応変に授業内容を変えたり、時に即興でセッションをしたりとライブな時間を大切にしてくれました。山川さんが表現したい「今、生きている」が実感できた授業になったと思います。特別支援の学校だからといって特別なことはしていません。ましてや障害のあるなしで、アーティストと子供たちを分け隔てることもしません。なぜなら、アーティストと「出会うこと」が全てのはじまりなのですから。

教員のコメント

授業が深いテーマのもと組み立てられていてとても良かったです。ガチでやって頂ける方が来ていただいて良かったです。子供たちの集中ぶりがすごかったです。見たことも体感したこともない世界を経験できて子供たちラッキーでした。

生徒たちの反応を見ていて、この機会を彼らに体験してもらったことが間違いではなかったなと思います。生徒は、深いところで作家の方が日々感じていることや伝えたいことを、悟っていたと思います。

アーティスト自身に魅力があり、深く物事をとらえてアートを行っている事など、穏やかな人柄もあって、生徒によく伝わっていました。

1時間の時間の中で導入、お話、実演、体験と配分良く進めて頂き、生徒たちもどんどん話に引き込まれていく様子がわかりました。お話も画像を交え、内容理解が難しい子にも伝わりました。また、体感できる授業で特支学級向きだと感じました。

子供たちが興味をもって授業に参加できていました。子供の実態として発言したり、発表したりといった言葉で伝えることは難しいですが、心に残る時間になったと思います。

子供たちがとても楽しそうに授業を受けていました。また、初めて見るもの、聞くことについて興味関心を持っていました。今までに体験したことのない世界を見せて頂けたと感じます。

実施データ

学 校 名	対 象	日 時
中野区立みなみの小学校(神明学級)	小1〜6　18人	2019年11月9日(土)1、2校時
中野区立美鳩小学校(あおぞら学級)	小1〜6　24人	2020年1月11日(土)3、4校時
東京都立八王子盲学校	中2〜3、高1〜3　22人	2020年1月14日(火)5、6校時
千代田区立麹町中学校特別支援学級	中1〜3　12人	2020年1月18日(土)1、2校時
江東区立香取小学校(仲よし学級)	小1〜6　27人	2020年1月20日(月)3、4校時
東京都立清瀬特別支援学校高等部	高1　37人	2020年2月18日(火)3、4校時

2019年度
「特別支援学校・学級限定！アーティストの一日学校訪問」の実施記録

編　集：郷 泰典(東京都現代美術館 事業企画課教育普及係)
デザイン・イラスト：進士 遙
発　行：2020年3月31日
公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館
©2020 東京都現代美術館
無断転載禁止
〒135-0022　東京都江東区三好4-1-1　TEL:03-5245-4111(代表)
https://www.mot-art-museum.jp/education/